

IV 家内労働者の労働条件の現状（平成26年10月調査）

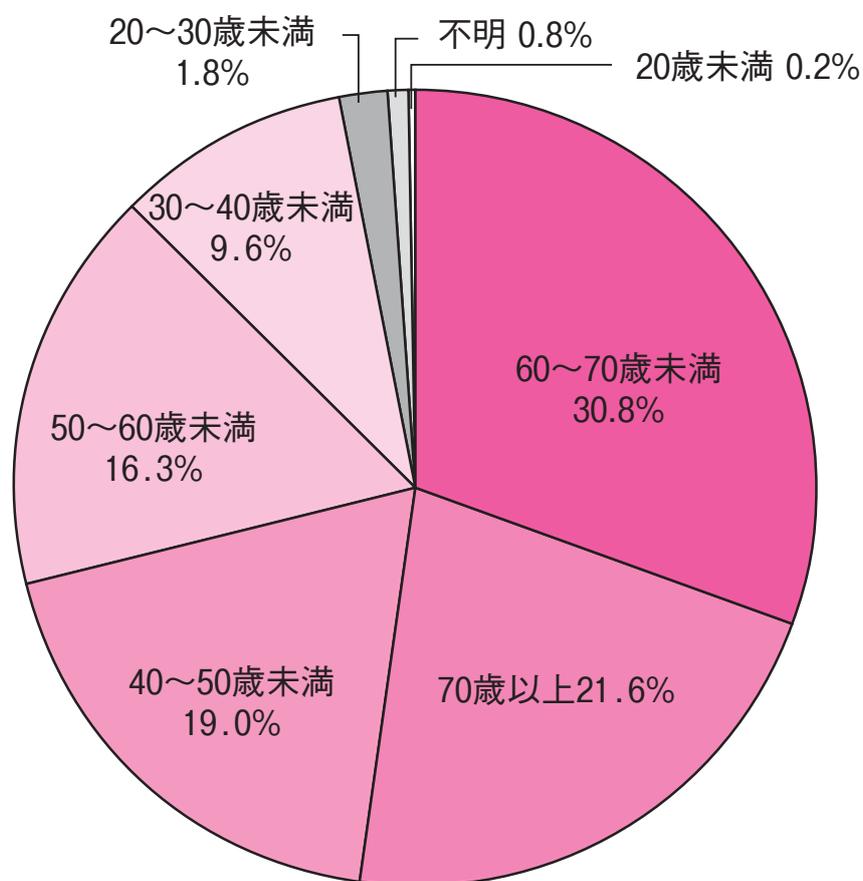
1 平均年齢は58.1歳、平均経験年数は10.9年

家内労働者の平均年齢は58.1歳で、これを男女別にみると、男性が62.8歳、女性が56.0歳となっています。

年齢階級別に家内労働者の構成比をみると、第1図のとおり、「60～70歳未満」が最も多く30.8%、次いで「70歳以上」が21.6%、「40～50歳未満」が19.0%と、これら3つの階級で全体の約7割を占めています。

また、家内労働者が現在の業務に従事してきた平均経験年数は10.9年であり、これを男女別にみると、男性は12.6年、女性は10.1年となっています。

第1図 年齢階級別家内労働者構成比



2 平均就業時間数は1日5.6時間、平均就業日数は1か月18.5日

家内労働者の平均就業時間数は、1日5.6時間であり、平均就業日数は、1か月18.5日となっています。

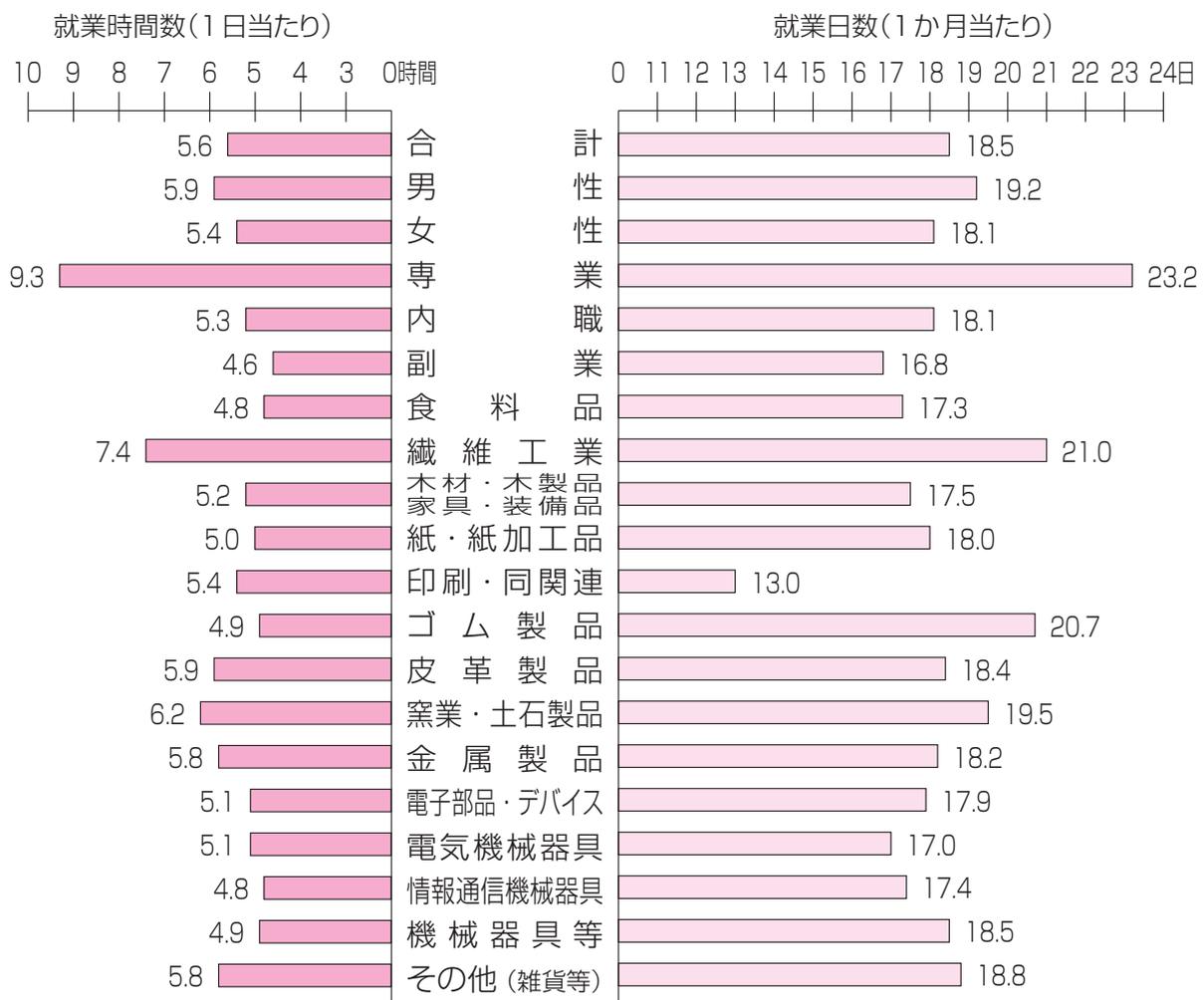
これを男女別にみると、男性の就業時間数は、1日5.9時間、就業日数は1か月19.2日であるのに対し、女性の就業時間数は1日5.4時間、就業日数は1か月18.1日となっています。

また、これを類型別にみると、専業は1日9.3時間、就業日数は1か月23.2日であるのに対し、内職は1日5.3時間、就業日数は1か月18.1日、副業は1日4.6時間、就業日数は1か月16.8日と、いずれも短くなっています。

次に、業種別に平均就業時間数をみると、「繊維工業」が7.4時間と、専業的家内労働者が比較的多い業種において長く、これに対して、「食料品」、「情報通信機械器具」が4.8時間と最も短くなっています。

また、平均就業日数をみると、「繊維工業」が21.0日、「ゴム製品」が20.7日、「窯業・土石製品」が19.5日と多く、これに対し、「印刷・同関連」が13.0日と最も少なくなっています。(第2図)

第2図 男女別、類型別、業種別1日当たりの平均就業時間数および1か月当たりの平均就業日数



3 平均工賃額は1時間428円、1か月4万6,890円

家内労働者の1時間当たりの平均工賃額（必要経費を除く。）は428円で、これを男女別にみると、男性が618円、女性が326円となっています。

これを類型別にみると、専業が784円、内職が358円、副業が328円となっています。

また、これを業種別にみると「金属製品」が848円と最も高く、次いで「窯業・土石製品」が668円、「印刷・同関連」が557円となっているのに対し、「食料品」は232円と最も低く、次いで「紙・紙加工品」が268円、「その他（雑貨等）」が279円となっています。

次に、1か月当たりの平均工賃額（必要経費を除く。）は4万6,890円で、これを男女別にみると、男性が7万5,273円、女性が3万3,934円となっています。

これを類型別にみると、専業が17万8,391円、内職が3万5,872円、副業が2万7,579円となっています。

また、これを業種別にみると、「金属製品」が9万4,241円と最も高く、次いで、「窯業・土石製品」が8万8,263円、「繊維工業」が7万9,483円となっているのに対し、「食料品」は2万1,699円と最も低く、次いで「紙・紙加工品」が2万5,429円、「電子部品・デバイス」が2万9,275円となっています。

第3図 男女別、類型別、業種別1時間および1か月当たりの工賃額

